

令和2年度（2020年度）

農学部オリエンテーション資料

- (1) 教務システム (Live Campus) の利用説明資料について
- (2) GPA制度について
- (3) オフィスアワーについて
- (4) シラバス説明文



教務システム（Live Campus）の利用説明資料について

佐賀大学では、卒業までの4年間の間に多くのシステムを利用し、学生生活を送ることとなります。

佐賀大学のHPに、学生のために特に利用するシステムである『教務システム』（通常、教職員はLiveCampus（ライブキャンパス）と呼びます。）についての説明資料を掲載しています。

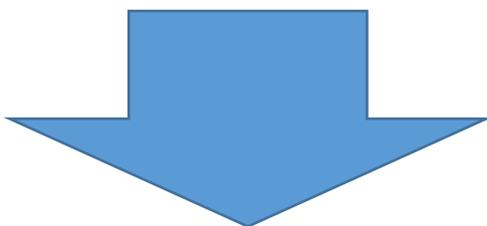
まずは、説明資料をよく読み、学籍情報の更新を必ず行ってください。

このLiveCampusは主に授業科目の履修登録を行うためのシステムです。大学の授業というのは皆さん自身が履修したい授業科目を選択し、皆さん自身で授業科目の履修登録まで行う必要があります。

履修登録の手続きを行っていないと、授業を履修できないという大変大きな不利益を被ることとなります。

このような事態を避けるためにも、必ずLiveCampusの利用方法について理解し、授業科目の履修登録を行ってください。

なお、LiveCampusを含む、佐賀大学内のほぼすべてのシステムを利用するには、IDとパスワードが必要になります。IDとパスワードの確認方法はのちに説明を行いますが、取り扱いには十分注意してください。



アクセス方法の確認は裏面へ

説明資料の参照方法

佐賀大学ホームページ>在学生の方へ>教務システム（Live Campus）の利用についてから、閲覧することができます。



QRコードからも直接アクセス可能です。



GPA制度について(学生用説明文)

H19. 4 大学教育委員会

改訂 H21. 4 大学教育委員会

改訂 H27. 3 教育委員会



佐賀大学では平成 19 年度から学部にも、また、平成20年度から大学院にもGPA制度を導入しています。GPAとは Grade Point Average の略で、もともとアメリカで一般的に行われている学生の成績評価方法の一つで、学生一人の履修科目の成績の平均を数値で表すものです。従来日本の大学で行われてきた「優、良、可、不可」といった大まかな成績評価に比べて、GPAによる成績評価は、学生が自分の履修状況をより客観的に把握でき、教員にとってもよりきめ細かな履修指導ができるということ、また教育の国際化という観点からも、最近日本でもこの制度を導入する大学が増えています。以下佐賀大学におけるGPAについて簡単に説明します。

1. GPAは、学生が履修した各科目の評価に一定のGPを与え、このGPにその科目の単位数を乗じ、その合計を履修科目の総単位数で割って算出します。GPAの対象となる科目は、教養教育科目、専門教育科目、教職に関する科目の中で、5段階評価によって成績を認定された科目とし、5段階評価のそれぞれに次のGPを与えます。

成績評価	GP	合否
秀 (90~100点)	4.0	合格
優 (80~89点)	3.0	合格
良 (70~79点)	2.0	合格
可 (60~69点)	1.0	合格
不可 (60点未満)	0	不合格

※【5段階評価によって認定された全ての授業科目がGPAの対象。】

2. GPAは学期ごとに算出したもの(=学期ごとGPA)と、各学期を通算したもの(=通算GPA)があり、その計算方法は次のとおりです。計算値は、小数点以下第2位を四捨五入して表記します。

学期ごとGPA

$$\frac{(\text{当該学期に評価を受けた科目で得たGP}) \times (\text{当該科目の単位数}) \text{の合計}}{\text{当該学期に評価を受けた科目の単位数の合計}}$$

通算GPA

$$\frac{[(\text{各学期に評価を受けた科目で得たGP}) \times (\text{当該科目の単位数}) \text{の合計}] \text{の総和}}{(\text{各学期に評価を受けた科目の単位数の合計}) \text{の総和}}$$

※【学期ごとGPA及び通算GPAを算出】

3. 「不可」の評価を受けた場合、その科目のGPは0となり、GPAが下がることに注意してください。

また、不正行為により無効とされた成績は不可として扱われます。ただし、不可と評価され、後に再履修等により合格になった科目については、合格時点の評価のGP及び単位が算入され、以前のGPは計算式から除外されます。

※【不可は、GP=0。不正も0。再履修で合格の場合は、不可を計算式から除外。】

4. GPAは、各学期末に学生の学業成績通知書に記載されます。 GPAにより自分の学習状況を数値で客観的に知り、明確な方向性を持って次の学期の履修計画を立てるなど、積極的に活用してください。特に、履修登録をしたすべての科目の成績がGPAに反映されるので、学生はシラバス等を参照して、慎重に履修登録を行うことが必要です。 学部・学科等によっては、GPAが高い学生を表彰したり、逆に、低い学生を特別に履修指導するというようなことに利用するところがあります。また、一定のGPAを進級のハードルとしている学部・学科、研究室やゼミの配属決定の場合にGPAの高い学生が優先される学部・学科もあります。

※【GPAは、成績通知書に記載。留学等で成績証明書へのGPAの記載が必要な場合については、別途対応】



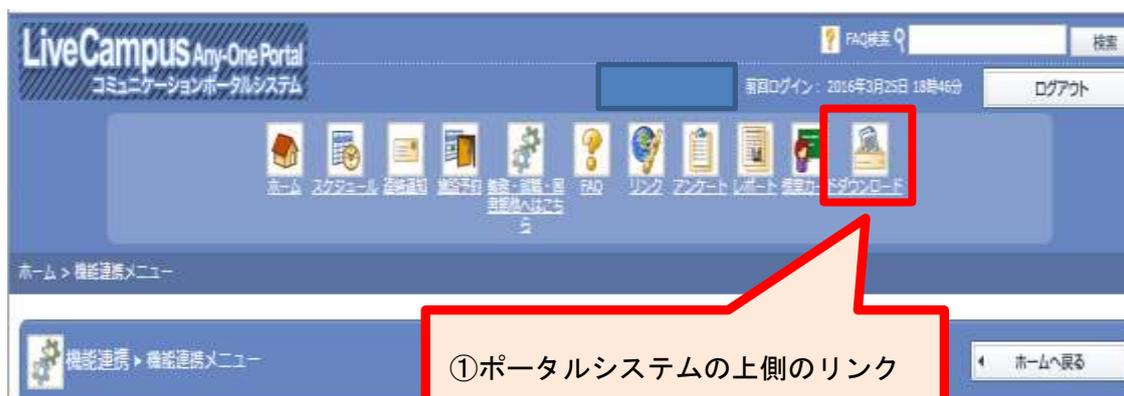
オフィスアワーについて

『オフィスアワー』に記載された時間帯には原則として教員が研究室等に待機して、学生の来訪に備えることになっています。遠慮せずどしどし訪問し、授業等に関する問題を解決しましょう。

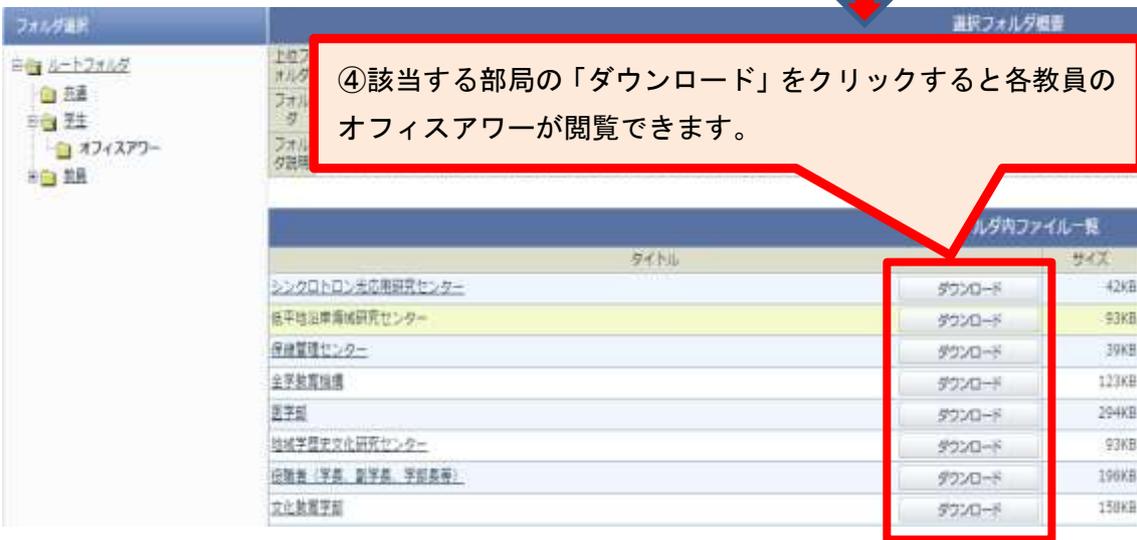
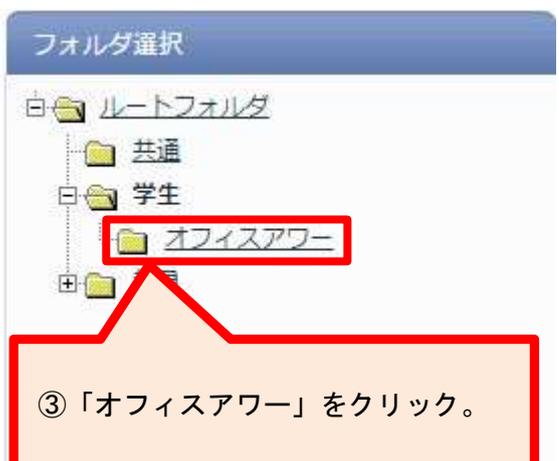
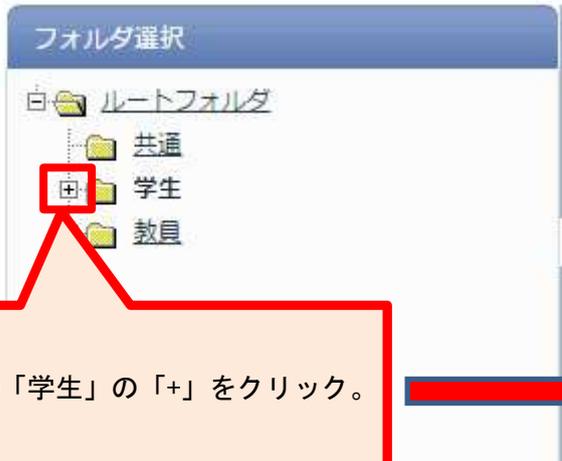
教員と学生が日頃積極的にコミュニケーションをとることは、授業内容の理解を深めるだけでなく、大学生活一般を有意義なものにし、佐賀大学を活性化するためにとても大切なことです。

【閲覧方法】

佐賀大学に所属する教員のオフィスアワーは、佐賀大学のホームページの「在学生の方へ」の「ライブキャンパス」からポータルシステムに入ってください。



①ポータルシステムの上側のリンクの「ダウンロード」をクリック。



シラバス説明文(学生用)

H19.3 大学教育委員会
改訂 H22.2 大学教育委員会
改訂 H25.1 大学教育委員会
改訂 H28.3 教育委員会

*** 1.「シラバス」は何のため? ***

「シラバス」は、個々の授業について教員と学生との約束ごとを取り交わしたもので、大学の中で重要な文書の一つです。教員はこのシラバスによって、自分はどうような内容の授業をどのような方法で行うのか、また学期末の成績評価をどのような方法や基準で行うのかを前もって学生に示します。一方、学生は、それらを了解した上でその授業を受講することになります。

これは大学に限ったことではありませんが、およそ授業というものはその科目の履修者に何らかの知識や技能を身につけてもらうために行われるもので、必ず履修者にとっての「到達目標」というものがあります。シラバスは、その到達目標や目標達成のための授業計画、履修者が心がけるべきこと、また成績評価の方法や基準を見やすい形で記したものです。教員は原則としてシラバスに書いた計画どおりに授業を行い、シラバスに書いた方法と基準によって成績評価を行う義務があります。一方、学生は、履修登録をした時点で、その授業科目のシラバスに書かれた内容に同意した、ということになります。そして、その授業の到達目標を達成するために努力する(勉強する)という義務が生じるのです。

*** 2.シラバスの項目について ***

以下シラバスの書式にしたがって各項目について簡単に説明します。

- 「開講年度」、「科目コード」、「科目名」、「曜日・校時」、「開講時期」
説明を要しないでしょう。

- **コースナンバー**

授業科目についての、水準、学問分野、開設部局を示す番号です。コースナンバーは、次のような構成になっています。履修を行う際には、授業の水準等をこの番号で確認してください。

(例) 有機化学 I 2 437x-234

- ①1 桁目の数字は授業の水準コードです。水準コードは以下のように区分されています。

- 1: 入門的・導入的な内容(1年次履修程度)で、専門基礎科目など
- 2: 中程度の内容(2,3年次履修程度)で、専門必修など
- 3: 応用・高度な内容(4年次履修)で、専門選択科目、卒業制作・研究など
- 4: 修士課程・博士前期課程の内容
- 5: 博士課程・博士後期課程の内容

②次の3桁の数字+アルファベットは分野コードで、授業科目が対象とする主たる学問分野を示します。学問分野はホームページの「コースナンバー」に掲載している日本図書分類要目表に基づいています。また、アルファベットxは各学部・学科に必要な区別(定義)を表します。詳しくは、ホームページに掲載している「コースナンバーについて」の末尾に示した「xの定義内容」をご覧ください。

③最後のハイフオン以下の3桁の数字は、開設部局(学部、学科)を示します。学籍番号の3桁目から5桁目の数字が学部・学科を表す数字です。全学教育機構は000と表記されます。各学部・学科の表記数字は、1年次に配布された「全学教育機構 履修の手引き」の最初に記されていますので、ご覧ください。

○ **「担当教員(所属)」**

その教員が所属する学部、センターなどが()に示されます。「非常勤」とは佐賀大学以外の大学等に所属する教員です。連絡がとりにくい場合は、教務課に申し出て下さい。

○ **「単位数」**

普通の「講義」形式の授業は2単位、外国語など「演習」形式の授業や「実験」科目は1単位となっています。ここで皆さんにぜひ知っておいて欲しいことがあります。学生便覧の佐賀大学学則第2章第19条にも記されているように、「1単位の授業科目は45時間の学修を必要とする内容をもって構成」され、「講義については、15時間の授業をもって1単位とする」ことになっています。大学の授業は通常1回90分ですが、本学ではこれを2時間とみなします。そこで本学ではこの90分授業を1学期間に15回(=30時間)行うことで2単位の授業になります。ただし授業に出席しただけでは上の条件(1単位=45時間の学修)を満たしません。1単位を得るためには45時間(2単位であれば90時間)の勉強が必要とされているので、学生には、講義科目(2単位)の場合、90時間から授業の30時間を差し引いた60時間分の授業外の勉強(予習、復習など)が課せられているのです。そのために教員の側からその時間分に相当する宿題などが課されることがあります。

○ **「学士力番号」**

本学では、本学の学生が入学から卒業までに順次身に付けてゆくべき体系的な能力を「佐賀大学学士力」として定めています。本学の授業科目はそれぞれ、この佐賀大学学士力の体系の中に位置づけられています。授業科目を履修する際には、学士力番号によってその授業科目がどのような能力の獲得を目指しているのかを確認し、それを意識しつつ授業に臨むことが大切です。

○ **「講義概要」**

授業全体の大まかな内容が書かれています。

○ **「開講意図」**

授業の目的やねらいが説明されています。

○ **「到達目標」**

最終的に学生に到達して欲しい知識や技能の量やレベルが書かれています。

○ **「聴講指定」**

対象学年を指定する等、受講対象者を限定する場合に記載されることがあります。

○ **「履修上の注意」**

授業を履修するに当たって、特に留意して欲しいこと、前もって準備して欲しいこと等が書かれています。

○ **「授業計画」**

授業の進度に即した毎回の授業内容が示されます。皆さんの予習や復習の参考にもなるはずですが、科目によっては、必ずしも毎回分ではなく、数回分ずつまとめた形で示されることがあります。

○ **「授業以外の学習」**

それぞれの授業に関して、授業の前に必要とされる予習の内容や、授業の後に必要とされる復習の内容あるいは課題などが示されます。

○ **「成績評価の方法と基準」**

「成績評価」は、シラバスに述べられている到達目標を、授業終了時点において履修者がどの程度達成しているかを測るものです。しかし、その方法や基準は、学期末の試験やレポートのみで評価する場合、途中で何回か小テストや小さなレポートを課す場合、出席状況や授業中の発表も評価に加味する場合等、それぞれの科目や教員の教育方針などによって異なります。いずれにしても、それらをどのような割合で成績評価に反映させるかが示されています。

○ **「開示する試験問題等」**

試験問題等のうち学生に開示するリストが示されます。

具体的には、(1)試験問題(定期試験以外の試験を含む。)、(2)レポート等の課題、(3)試験問題の解答、解答例または出題の意図、(4)レポート等の解答例または出題の意図、(5)配点、(6)解説等のうちから学生に開示するリストが示されます。

○ **「開示方法」**

上記「開示する試験問題等」で示された開示リストについて、具体的な開示方法が示されます。

具体的には、「ウェブで公開する」、「研究室前に掲示する」等の情報が示されます。

○ **「教科書」**

授業を履修する上で購入すべき書籍が指定されています。

○ **「参考図書」**

購入するには及ばないが図書館などで借り出して読んで欲しい「参考文献」が書かれています。授業の途中で随時紹介される文献や資料もあります。

○ **「リンク」**

インターネット上で関連するサイトを示しています。授業を越えた自分なりの関心や問題意識を持つことを目指せば、授業もより有意義なものになるでしょう。「情報の宝庫」としてのインターネットは、それらの関心や問題意識の供給源であり、解決の場でもありません。

○ **「オフィスアワー」**

授業や学生生活について質問や相談があれば、いつでも教員の研究室を訪ねていいのですが、教員も他の授業や会議などで必ずしも研究室にいるとは限りません。しかし、**「オフィスアワー」に記された時間帯には原則として教員が研究室等に待機して、学生の来訪に備えることになっています。**遠慮せずにどしどし訪問して質問し、授業等に関する問題を解決しましょう。教員と学生が日頃積極的にコミュニケーションをとることは、授業内容の理解を深めるだけでなく、大学生活一般を有意義なものにし、佐賀大学を活性化するためにとっても大事なことです。

○ **「その他」**

その他、授業および授業科目について必要なことが記載されています。

